

2017年2月

インバウンドシンポジウム開催報告

日本政府観光局（JNTO）は、日本経済新聞社と共催で平成29年2月2日に、インバウンドシンポジウム「インバウンド4,000万人時代を目指して～観光ビジネス大国へのロードマップ～」を東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催しました。

日本各地から地方公共団体、観光・コンベンション推進機関、宿泊施設、旅行会社、運輸機関などインバウンドに直接関連のある企業・団体の他、飲食業、メーカー、小売業、金融機関等、幅広い業種から計851名の方々にご参加いただきました。

シンポジウムでは、ロバート・キャンベル氏（日本文学研究者・東京大学大学院教授）より、「4,000万人時代に向けた訪日観光飛躍のツボ」と題した基調講演の他、自治体・民間企業による先進的なインバウンドへの取り組み事例として國島芳明氏（岐阜県高山市長）、川鍋一郎氏（日本交通代表取締役会長）よりそれぞれご講演いただきました。プログラムの最後に行われたパネルディスカッションでは、「訪日外客4,000万人、インバウンド消費8兆円を目指して」というテーマのもと、パネリストとして大西啓介氏（ナビタイムジャパン代表取締役社長兼CEO）、フレデリック・マゼンク氏（フランス観光開発機構在日代表）、劉瀟瀟氏（三菱総合研究所政策・経済研究センター研究員）を迎え、ビッグデータから見るインバウンドの現状や、欧米・アジアの外国人目線から見る日本のインバウンド飛躍のポイントに関する提言が示され、活発な議論が行われました。JNTOでは、政府目標である2020年の訪日外客4,000万人、インバウンド消費額8兆円を目指し、今後も幅広い業種の皆様に対し、インバウンドへの参入とビジネスとしての成長を考える機会を提供し、インバウンドの裾野の拡大に努めていきます。



(当日の写真)